

2019.11.26 / 東京ミッドタウン日比谷ベースQ(東京都千代田区)
グローバル・エネルギー・インターコネクション発展協力機構
(GEIDCO) / 自然エネルギー財団主催国際シンポジウム
「連系するエネルギーシステムと自然エネルギー拡大」
パネルディスカッション
「自然エネルギー拡大における送電網の役割」
アジアスーパーグリッド(ASG)と
日本の電気事業の未来

橘川 武郎(きっかわ たけお)
東京理科大学大学院経営学研究科教授
kikkawa09@gmail.com

再生可能エネルギーの大幅な拡充

- ・大幅拡充を前提に、技術的・制度的ネックを1つ1つ克服する
- ・再生可能エネルギーには二つのタイプがある
- ・タイプA: 地熱・水力・バイオマス
 - 規制による制約(地熱、小水力)、温泉業者との利害調整(地熱)、物流コスト(バイオマス)
 - 規制緩和、温泉業者とのwin-winモデル構築が鍵
- ・タイプB: 風力・太陽光
 - 固定価格買取制度(Feed In Tariff)後こそが問題
 - 市場ベースでの導入が不可避
 - ネックとして送変電網
 - ①原発廃炉分・空き容量の利用、
 - ②「作る」=電力会社のネットワーク会社化、
 - ③「使わない」:スマートコミュニティ、パワーtoガスや水素としての運搬

原子力発電所原子炉の現況

*2011年3月11日現在

既設 54基 + 建設中 3基 = 57基

*現 状

稼働中 9基

許可獲得済みだが未稼働 6基

申請中だが許可未獲得 12基

未申請 9基

廃炉決定 21基

.....

合 計 57基

*「2030年原子力20～22%」の実現は難しい。

電力業界における3つのビジネスモデル

(1) 原子力依存型経営

(2) 大型電源依存型経営

(3) 分散型電源・ネットワーク重視型経営

2020発送電分離から送配電分離も

東西に広域TSO (Transmission System Operator) 登場も

本来のコアコンピタンス = 系統運用能力への回帰

未来形のビジネスモデル

ASGのインパクト

- (1) ネットワーク重視型電力経営への移行
- (2) 高圧直流送電の活用
- (3) 再生可能エネルギーの利用拡大